

第6回小児がん中央機関アドバイザーボード
2021年3月9日（火）14：00～17：00

小児がん中央機関 相談支援事業報告

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
医療連携・患者支援センター／小児がん相談支援センター

ソーシャルワーカー 鈴木 彩

小児がん中央機関 相談支援事業

- 小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する相談支援の向上に関する体制整備を行う
 - 小児がん相談員専門研修
 - 小児がん拠点病院相談員継続研修
 - 小児がん相談員研修検討委員会
 - 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会
- 小児がん患者・経験者の発達段階に応じた長期的な支援のあり方について検討する

小児がん相談員研修について

2020年度 小児がん相談員専門研修

開催日：2020年9月26日（土）・9月27日（日）

開催方法：ZoomによるWeb研修

受講者内訳：小児がん拠点病院 23名
小児がん連携病院 52名 合計75名

【職種】看護師34名・ソーシャルワーカー 30名
心理士5名・CLS/HPS 2名・事務 1名
小児がん相談室事務職 1名・がん相談員 1名
キャリアコンサルタント1名

【受講の扱い】業務扱い 59名
業務扱いではない 16名

【演習の受講】9/27（日）16名
2/17（水）32名（同日に演習を3回実施）
2/28（日）21名（同日に演習を2回実施）
（4名のみ演習受講ができず、講義のみ修了）

小児がん相談員専門研修プログラム

1日目

時間	プログラム	講師
9:30-9:50	受付	
9:50-10:00	オリエンテーション	
10:00-10:10	講義1「小児がん対策」	厚生労働省 健康局がん・ 疾病対策課
10:10-10:40	講義2「小児・AYA世代のがん患者に 対する相談支援センターの役割」	鈴木 彩 国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター
10:40-11:40	講義3「小児がん概論」	松本 公一 国立成育医療研究センター 小児がんセンター
11:40-12:10	講義4「AYA世代のがん」	富澤 大輔 国立成育医療研究センター 小児がんセンター
12:10-13:10	休憩	
13:10-13:40	講義5「血液腫瘍」	富澤 大輔 国立成育医療研究センター 小児がんセンター
13:40-14:10	講義6「固形腫瘍」	寺島 慶太 国立成育医療研究センター 小児がんセンター
14:10-14:40	講義7「脳腫瘍」	寺島 慶太 国立成育医療研究センター 小児がんセンター
14:40-15:20	講義8「晩期合併症と長期フォローアッ プ」	清谷 知賀子 国立成育医療研究センター 小児がんセンター
15:20-15:30	休憩	
15:30-16:00	講義9「小児緩和ケア」	余谷 暢之 国立成育医療研究センター 総合診療部 緩和ケア科
16:00-16:30	講義10「小児がんの子どもの成長発 達」	田中 恭子 国立成育医療研究センター こころの診療部
16:30-17:00	講義11「小児がん患者・きょうだいへ の支援」	伊藤 麻衣 国立成育医療研究センター チャイルドライフサービス室

2日目

時間	プログラム	講師
9:00-9:30	講義12 「教育支援」	竹村 由香理 埼玉県立けやき特別支援学校
9:30-10:00	講義13 「小児がん患者家族を 支える社会資源」	篠崎 咲子 埼玉県立小児医療センター
10:00-10:40	講義14 「当事者の語り」	
10:40-11:10	講義15 「自立支援」	小俣 智子 武蔵野大学
11:10-12:00	講義16 「相談支援概論」	田村 里子 WITH医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部
12:00-13:00	休憩	
13:00-14:00	講義17 「小児がんの相談支援 の実際」	竹之内 直子 神奈川県立こども医療センター 小児がん相談支援室
14:00-14:10	休憩	
14:10-16:10	演習（事例検討）	
16:10-16:30	事務連絡	

2020年度小児がん拠点病院相談員継続研修

開催日：2020年11月28日（土）13:00-16:30

開催方法：Web研修（Zoomを使用）

内容：小児がん長期フォローアップにおける相談員の役割
—成長発達に応じた自立（自律）支援—

目的：小児がん拠点病院等の整備に関する指針に明記されている「長期にわたり診療できる体制」について学ぶ。

今回は特に自立支援における相談員の役割について、必要な知識と実践に使える方法を学ぶことを目的とする。

受講者数：13拠点病院より23名

2020年度 小児がん拠点病院相談員継続研修 プログラム

小児がん長期フォローアップにおける相談員の役割 – 成長発達に応じた自立(自律)支援 –

時間	プログラム	講師
13:00-13:10	開会あいさつ・研修について	
13:10-13:30	小児がんの移行期医療について	国立成育医療研究センター 小児がんセンター 小児がん血液腫瘍科 富澤 大輔
13:30-13:50	長期フォローアップ外来での関わり	国立成育医療研究センター 看護部 柴田 映子
13:50-14:20	グループディスカッション①	
14:20-14:30	休憩 (10分)	
14:30-15:00	小児がん患者・経験者への自立支援	国立成育医療研究センター こころの診療部 児童・思春期リエゾン診療科 田中 恭子
15:00-15:20	経験者の立場から	
15:20-15:50	グループディスカッション②	
15:50-16:10	発表	
16:10-16:20	自立支援における相談員の役割	国立成育医療研究センター 小児がん相談支援センター 鈴木 彩
16:20-16:30	事務連絡等	

小児がん拠点病院相談員ブロック研修検討会

開催日：2021年3月2日（火）13:00-16:00

開催方法：オンライン会議

出席者数：15拠点病院より27名

議事：

1. 当検討会の目的について

2. 意見交換①

テーマ「研修に必要なシステム・マンパワーについて／研修の体制づくりについて」

3. オンラインで相談支援部会等を実施してきたブロックからの発表

1) 広島大学病院

2) 東北大学病院

4. 意見交換②

テーマ「ブロックにおいて必要な研修プログラムの検討」

5. 研修の企画・運営について

WITH医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部 田村 里子

6. 全体共有・まとめ

小児がん相談員研修検討委員会について

<2020年度研修検討委員>

- 小俣智子（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科／小児がん経験者）
- 河俣あゆみ（三重大学医学部附属病院 看護部）
- 篠崎咲子（埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター）
- 関由起子（埼玉大学教育学部学校保健学講座）
- 竹之内直子（神奈川県立こども医療センター 小児がん相談支援室）
- 田村里子（一般社団法人WITH医療福祉実践研究所）
（事務局）
- 高山智子（国立がん研究センター がん対策情報センター）
- 松本公一（国立成育医療研究センター）
- 鈴木彩（国立成育医療研究センター）

<2020年度会議開催>

- 第11回小児がん相談員研修検討委員会
2020年8月19日（水）14:00－15:30
- 第12回小児がん相談員研修検討委員会
2020年2月8日（月）15:00－16:30
今年度はオンライン会議となった。今後も年2回程度、オンラインにて行う予定。

各研修の方向性

【小児がん相談員専門研修】

対象：拠点&連携病院

- 来年度からE-learningを取り入れる。
17講義のうち、13講義をEラーニングにて事前受講。
残り4講義と演習を集合開催（1日研修）とする。

【小児がん拠点病院相談員継続研修】

対象：拠点病院の相談員

- 2021年度は拠点病院に対して実施。
- 翌年以降に同じような研修を各ブロックにて開催する。

【小児がん拠点病院相談員ブロック企画研修（仮）】

対象：拠点病院の相談支援センターの相談員

- ブロックにおいて、相談支援の質の向上を目指した研修を企画・運営できるようにする目的の研修を拠点病院の相談支援センターの相談員に対して行なう。

相談支援部会の開催について

小児がん拠点病院連絡協議会

小児がん中央機関

国立がん研究センター
国立成育医療研究センター

小児がん拠点病院
連絡協議会

- 連絡協議会 年2回
- 相談支援部会 年2回

北海道

東北

関東甲信越

中部

近畿

中四国

九州・沖縄

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

各都道府県協議会

第12回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会 (資料提供)

<内容>

1. 高校生の教育支援について

1) 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について

(資料3：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課提供)

2) 高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究「JCCG参加施設アンケート・

インタビュー結果」(令和元年度厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)

「AYA世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究」)

(資料4：聖路加国際病院 小澤美和先生他提供)

3) 第12回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会 事前アンケート結果 (資料5)

4) 教育支援ワーキンググループについて (資料6)

2. 相談記入シートについて (資料7)

3. 各ブロックの年間計画について (資料8)

4. その他

小児がん中央機関が行う相談員研修について

第13回 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会

日時：2020年11月27日（金）10:00～12:00

開催方法：オンライン（Zoomを使用）

参加人数：16施設（拠点病院15施設＋中央機関2施設）
33名

小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会 設置要領

（検討事項）

第2条

部会は、次の各号に掲げる事項について、情報を共有・検討する。

- 一 地域単位、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みの現状把握と分析、情報共有に関すること
- 二 相談支援体制機能の強化と向上を果たす上で必要となる全国、地域単位の体制の整備
- 三 小児がん患者家族の支援に関連した施策・制度面の改善等を整理し、協議会を通じて発信できるような提言に向けた素案の作成

議事

I 挨拶

国立成育医療研究センター 小児がんセンター長 松本 公一
厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

II 議事

1. がん患者・経験者の治療と仕事の両立支援施策の現状について
厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 山崎 まどか
労働基準局 安全衛生部労働衛生課 岡久 潤
2. 厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業
「小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究」(大隅班)の
分担研究について
国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科 荒川 歩
3. 各ブロックからの活動報告
4. 教育支援検討ワーキンググループからの報告
5. 意見交換会

小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会 教育支援検討ワーキンググループについて

小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会 設置要領

(ワーキンググループ)

第5条 会長は、部会の円滑な運営を図るため、必要と認めるときは部会にワーキンググループを設け、グループ長及びグループ委員を指名することができる。

2 ワーキンググループは、グループ長及びグループ委員を指名することができる。

3 グループ長は、ワーキンググループを主宰する。

4 グループ長は、検討した結果を部会に報告し、了承を得る。

5 ワーキンググループ委員の任期については、選任の日が属する年度の末日までの期間とする。

6 ワーキンググループは、必要に応じグループ長が招集し、会議を行う。

→第12回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会において
教育支援検討WGを立ち上げたい旨を部会員にお知らせ。

ワーキンググループ委員については中央機関から指名をした。

小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会 教育支援検討ワーキンググループ 委員と会議について

➤ ワーキンググループ委員

氏名	所属等
大濱 江美子	大阪市立総合医療センター 入退院センター
白松 裕	広島大学病院 看護部
山田 佳織	名古屋大学医学部附属病院 地域連携・患者相談支援センター
志村 芳紀	埼玉県立けやき特別支援学校
鈴木 彩	国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター

➤ 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会 第1回教育支援検討ワーキンググループ会議

日時：令和2年10月5日（月） 15：00～16：30

開催：Web会議（Zoom）

- 議事：1. 小児がん拠点病院における教育支援について
2. 高等教育における取組みについて（各機関の状況）
3. WGでの検討内容について
4. 今後の予定

小児・AYA世代がん患者の教育に関する要望書（案）

1. 前籍校とつながりの維持

長期入院により在籍校または前籍校（以下、各学校と表記）への所属感が減り、友人や教員との関係性にも不安を抱くことで心理的不安定を生じやすい状況になります。各学校とつながりを維持することで気持ちが安定し、治療に対する意欲の向上が期待できるため、各学校とのつながりを維持できるような学校側の配慮を要望いたします。

2. 一人一人の状態に応じたデジタル機材・ICT機器の確保と遠隔教育の提案

GIGAスクール構想では「1人1台端末」の実現が言われていますが、現状では入院中に在籍校（前籍校）の授業を受ける場合、ICT機器を患者家族または医療機関が準備をしています。入院する子どもの教育の機会を保障する観点から、ICT機器を教育委員会または各学校にて所有・管理し、入院後前籍校から機器の貸し出しを行う体制を整備していただくことを要望いたします。

3. 入院中に受験が必要になる患者への環境整備

入院中に受験が必要になる場合も各学校の対応が統一されておらず、個別に対応をいただいている現状があります。患者が志望している学校に出願した際に、入院中でも院内で受験できるよう法整備を要望いたします。

4. 医療機関と学校がオンラインで連携できる環境整備

復学に際し、医療機関と学校がオンラインで情報共有の会議ができる環境を整備していただくことを要望いたします。

小児・AYA世代がん患者の教育に関する要望書（案）

5. 病気の影響で通学や学校内で介助が必要になった場合の対応

介助が必要になった場合、学校側が介助員を探すことを求められたり、年度途中だと予算の関係で断られたりすることが起こっています。また障害福祉サービスのヘルパー事業所の活用などは公的支援の対象外となっていることがほとんどのため、柔軟な運用や制度化を要望します。

6. 医療的ケア児のための看護師の配置

学校において医療的ケアが必要になる子どもに対し、訪問看護ステーションから看護師が学校に訪問した場合でも診療報酬を算定できるように改定することを要望いたします。

7. コーディネーターや担当部署の設置

以上に述べた支援を進めるには、医療と教育の連携を図り、ノウハウを蓄積し、ICT機器等を活用し、様々な課題に対応する必要があります。各自治体に対し、そのような対応ができるよう体制整備をしていただくとともに、コーディネーターや担当部署の設置を要望いたします。

8. 入院や自宅療養する児童生徒に対する支援の制度化

公立校・私立校問わず、治療のために通学できない児童生徒に対して、在籍校が学習面や心理面での支援をする法整備を要望いたします。

相談支援部会での意見交換会

- 6グループに分かれ、意見交換を行った。
 - 要望書（案）の内容や書き方についてのご意見
 - 他に要望としてあげた方がよいこと
- 部会終了後のアンケートにもたくさんのご意見をいただいた。

要望書作成に向けて

- 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会 第2回教育支援検討ワーキンググループ会議
日時：令和2年1月8日（金） 16：00～17：30
開催：Web会議（Zoom）
 - 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会 第3回教育支援検討ワーキンググループ会議
日時：令和2年3月8日（月） 16：00～17：30
開催：Web会議（Zoom）
 - 第14回小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会
日時：2021年5月28日（金）13:00～15:00（予定）
開催：オンライン開催の予定
- 要望書の内容について決定し、第14回小児がん拠点病院連絡協議会にて承認を得られるよう進める予定

来年度以降の検討事項

- 相談支援体制の整備について
 - 各ブロックにおいて拠点病院が連携病院を牽引する役割が取れるよう、中央機関が拠点病院に対して研修等の機会を提供する。
- AYA世代の教育支援について
 - ワーキンググループ、相談支援部会を通じて、教育支援に関する要望書をまとめ、小児がん拠点病院連絡協議会を通じて、厚生労働省や文部科学省に提出する。